

令和7年度 大野市地域医療協議会 会議概要

【日 時】令和7年10月15日（水）19：00～20：30

【場 所】結とびあ 2階 201・202号室

【協議事項】

（1）大野市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）コロナウイルスがまだよくわからない中で、結とびあで実施した集団接種は、消防や市職員が配置され、市民が安心して接種できる体制であった。今回の経験を生かしていただきたい。

（委員）平時からの県と市の連携が大事である。平時からの研修会開催など積極的に協力したい。

（委員）未知のウイルスに対しての対策、記憶が冷めやらぬうちに確認することが大切だと思う。平時からの取り組みが重要であり、特に市民に対して平時からどう備えるべきかわかりやすく伝えられるとよい。

（委員）平時の周知徹底、訓練が大事であり、企業などの集団に対する感染対策の周知も大切である。

（委員）新たに加えられたリスクコミュニケーションとワクチンが肝心であり、ここをしっかりと取り組んでいきたい。

（委員）自分たちの業界で何を要請されるのか分かっていると準備ができるので、事前に知らせてほしい。

（委員）平成21年に新型インフルエンザが流行し、忘れたところにコロナの流行があった。行動計画があっても現場は対応にとまどった。情報共有が大切だと感じている。

（委員）介護現場では、いろんな情報が飛び交う中で、高齢者を守る、職員を守る、どちらも大変だった。事業所でも業務継続計画が必要となるが、市の計画を参考に作っていくと思う。平時の訓練等は、末端まで参加できるようにお願いしたい。高齢者の現場で一番困るのは、介護職員が感染し弱い高齢者に感染を広げてしまうことや、必要な介護を提供できないことだ。相当な責任と負担がのしかかると感じた。

（2）和泉診療所におけるオンライン診療について

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）利用者は自分のタブレットを使うのか。

（事務局）ご自身のものを使うが、高齢の方のスマホは、迷惑防止機能など制限がかかって

いることもあり、うまくいかない場合もある。

(委員) 対象は和泉地区の方だけか。

(事務局) 和泉地区以外の方もいる。現在生活習慣病で利用している方は地区外の人である。

●県実証実験「まど」の紹介

窓越しに話をしているようなイメージでとても画像がきれい。

いろんな業界で使われていて、医療・介護現場でも施設と病院をつないだり、本院と分院をつないだり、リハビリなどでも使用している。

入院している人と自宅の家族をつないで、すぐ近くで会っているような感覚になる。音声もクリアで同時に会話できることがウリである。県のモデル事業で県立病院、和泉診療所、上中病院に設置している。まだ実績はない。

●県実証実験「医療 MASS」の紹介

機材を搭載した専用の車で看護師が地域をまわり、医師とオンラインでつなぐ。

(3) 在宅医療・介護連携推進事業について

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

(委員) 2040 年が高齢化のピークとなり、救急搬送ができなかったり在宅医療で診れない人が出てくると言われていたが、大野市の現状はどうか。

(事務局) 大野市の救急に問題はない。ただ、救急車 4 台すべて出て行って、すぐに帰ってこれないという状況が、今後出てこないとは言えないが、現状は問題ない。

(4) かかりつけ医機能報告制度について

○福井県地域医療課：資料に基づき説明

○主な意見等

(委員) いろいろな診療科があるが、すべて一旦かかりつけ医に行き、紹介してもらうようにすべきということか。

(県) 国は当初ヨーロッパ諸国を参考に、そのように考えていたが、実際には自分がいきやすい医療機関を選ぶことが多く、登録制というものはなくなった。あくまで各医療機関がどのような機能を有しているか、情報を取りまとめ、整理するために行うものであり、それを今後の対策等に生かしていく。

(委員) これによって市内の医療機関における機能が見える化され、足りない機能が出てきたときに、県の協議の場において不足を補充する何かが出てくるということか。説明の中で、担い手や機能の不足をどう解決するのか見えにくかった。

(県) 制度については認識のとおりである。協議の場で課題等が出てくるなか、地域の実情によって、県が課題となる部分を埋める場合もあるし、市町が対応という場合もあると

思う。協議の場については、国からの情報もまだぼんやりとしている部分もあり、実務の会議も並行しているので、より詳細な情報がでたら市町に周知する。

(委員) 民間の医療機関で、機能的にできないことが増えてきた場合、大野市には和泉診療所や休日急患診療所があるが、これら市の診療所で補完していかななくてはいけないということなのか。

(委員) 地域医療構想調整会議で問題点を洗い出して、県の指導のもと地元で検討することかと思う。対応策はここで検討されるので、まずはデータを集めようということかと認識している。

(県) おっしゃる通りである。まずは地域の事情があるので、協議の場において課題を明らかにし、対策を考えていくものである。

(委員) 海外で約3年間過ごしたが、そこではホームドクターが必ずいた。大野でも家族皆がかりつけ医にかかっている、場合によっては大きな病院に紹介してもらっていて安心して医療にかかっている。一方でかかりつけ医のことを知らない人もいて、大病院で受診を断られた人もいた。制度について繰り返し周知徹底することが一番近道だと思う。

(委員) 和泉地区の人は、皆和泉診療所がかかりつけ医という意識がある。仕事をしていた時、大野市内の人の中には、かかりつけ医を決めていない人がいて、介護が必要になったときに意見書を書いてもらえる先生がいなくて、病状が悪化したときに相談できる先生がいなくてというケースをみてきた。健康な時からかかりつけ医を決めておくことが大事だと思う。

4 その他 特になし